

JATLaC

言語文化教育学会 公開シンポジウム

マンガはいつから「文化」になったのか？

- “Cool Japan”を支えるポップカルチャーとしてのマンガ-

日時：2017年6月3日（土） 午後1時30分より5時30分

場所：早稲田大学 早稲田キャンパス 16号館 4階 404教室

〔地下鉄東西線早稲田駅下車 <http://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus>〕

参加費：会員-無料、非会員-1000円（学生は、学生証提示で無料）

パネリスト・ディスカッサント

黄 思祺 氏 （ヒューマンアカデミー日本語学校 専任講師）

松久 智治 氏 （(株)テレビ朝日 総合編成局 編成戦略部 アニメ担当部長）

武藤 心平 氏 （(株)小学館 児童学習局 教育企画室 デスク）

森下 達 氏 （東京成徳大学 人文学部 日本伝統文化学科 助教）

コーディネーター

中井 基博 氏 （当学会理事・東京国際大学）

マンガが社会に果たす主要な役割には、新聞のコママンガを中心とする社会政治風刺、少年誌や青年誌等の多様なストーリーマンガを中心とするエンターテインメント、学習マンガを中心とする一般教養や専門分野への導入や解説を目的とする教育の3つがある。今回のシンポジウムでは、出版メディア、学問研究、海外受容という異なるフィールドから、現代社会においてマンガの果たす役割と意味を改めて問い直す。

〔事前申込み不要・どなたでもご参加いただけます〕

問合せ先：言語文化教育学会事務局（E-mail: jatlac@gol.com）

学会ホームページ：<http://www.waseda.jp/assoc-JATLaC/>